

魚津水族館周辺で発見したタカチホヘビの記録

草間 啓・齋藤真里・稲村 修（魚津水族館）

Records of *Achalinus spinalis* around the Uozu aquarium

Satoshi KUSAMA Mari SAITO Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

はじめに

タカチホヘビ *Achalinus spinalis* は、本州、四国、九州などの平地から山地まで生息し、全長 30～60 cm と小型のヘビで、地中性で夜行性のため、実際の生息数からすると発見例が少ない（内山ほか，2002）。

富山県では丘陵や山地で稀に見られ（南部，2001），「レッドデータブックとやま 2012」では、準絶滅危惧種に指定されている（富山県生活環境文化部自然保護課，2012）。近年の報告は、2015 年に魚津市と黒部市で各 1 個体（草間ら，2017），2016 年に南砺市利賀村で 2 個体（森ら，2017）のみで、魚津市においては、湯上地区で 2015 年に轢死した幼体が確認されたのみである（草間ら，2017）。

今回、2021-2022 年に魚津市三ヶ地区にある魚津水族館周辺で、2 個体のタカチホヘビを発見したので報告する。

発見個体

個体①（写真 1）

発見日時：2021 年 8 月 8 日 8 時頃

発見場所：魚津水族館内 1 階機械室

発見者：電機設備担当職員

気温：25.5℃（屋外は 32.0℃）

全長：約 270 mm（目測）

備考：発見時は生存しており、撮影後に屋外へ放した。

個体②（写真 2）

発見日時：2022 年 8 月 3 日 18 時頃

発見場所：魚津水族館に隣接する水田の畦

発見者：齋藤真里

気温：30.0℃

全長：138 mm

備考：つぶれた状態で死亡しており、筋肉、内臓の一部が体外に飛び出していた。

考察

本種の体色の背面は、幼体時は暗褐色だが、成長するに従い黄褐色に近い体色に変わり、背面の中央には後頭部から尾まで比較的明瞭で細い黒色の縦条が入る（大谷，2010）。また、全長は 30～60 cm で（大谷，2010），内藤ら（1999）は、全長 222.4 mm の個体が卵巣卵を保有していることを確認しているため、全長 220 mm 以上の個体は性成熟しているものと推測している。また、孵化直後の幼体は、全長約 13.5 cm とされている（松橋・富田，2007）。今回確認した個体①は全長約 270 mm で、体色は黄褐色で背面中央部には黒色縦条が認められたため、性成熟した成体、個体②は全長 138 mm で、体色は暗褐色であったことから、孵化して間もない幼体だと考えられる。

次に発見時の状態について、個体①は水族館内の 1 階にある機械室（半地下状態

GL:-1900 mm) の床面で生きた状態で発見されたが、特に痩せてはおらず、菅野・原 (2000) のヘビ類の飢餓時に見られる背骨が浮き出てくる状態ではなかったことから、館内に迷入して間もなくであったと推測された。個体②は水田の畦で発見され、すでに死亡して体は乾燥しており、筋肉や内臓の一部が体外に飛び出していたが、他の動物に食べられた痕跡はなかった。発見場所の畦は狭く、車や自転車などは通行できないため轢死ではなく、全長 138 mm と小型であることから、人間に踏まれて圧死したと考えられた。

山本 (1984) は、本種の好む生息環境について、水はけや通気性の良い地質の地表を腐葉土が覆い、適した湿度が保たれること、餌のミミズ類が多く生息していることとしている。魚津水族館は魚津総合公園の一部にあり、公園内は芝が植えられており、定期的に草刈りされているが、周辺には多数のサクラやマツなどが植えられている。それらの落葉などが堆積して形成された腐葉土があり、そこには餌となるミミズ類も多く生息し、本種の好む生息環境の条件を満たす場所が存在している。今回、成体と幼体が継続的に発見されたことや本種の好む生息環境が存在することから、魚津水族館の周辺に一定数が生息・繁殖している可能性が考えられる。

さいごに

本種は夜行性・地中性のため、普段見かけることが少なく、一般的にもほとんど知られていない。生態の解明には、このような記録の蓄積が重要であると考え。今後は、繁殖期などに腐葉土が堆積した場所を

重点的に調査していきたい。

引用文献

- 草間 啓・不破光大・伊串祐紀・稲村 修, 2017. 富山県東部で確認された希少ヘビ類の記録. 魚津水族博物館年報, (26): 27-29.
- 松橋利光・富田京一, 2007. 日本のカメ・トカゲ・ヘビ, pp. 206-207. 山と溪谷社. 東京.
- 森 大輔・草間 啓・澤田研太・白石俊明・南部久男・福田 保・荒木克昌, 2017. 富山県における両生類・爬虫類の記録 (2016 年). 富山の生物, (56): 92-97.
- 内藤順一・矢野立志・畑瀬 淳・原紺勇一, 1999. 広島県西部におけるタカチホヘビの採集例. 高原の自然, (4): 79-93.
- 南部久男 (編), 2001. 富山市文化科学センター収蔵資料目録第 14 号 両生類・爬虫類, pp. 39-40. 富山市文化科学センター. 富山.
- 菅野宏文・原 幸治, 2000. ヘビの医・食・住, 155pp. 株式会社どうぶつ出版. 東京.
- 富山県生活環境文化自然保護課, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブックとやま 2012 - 爬虫類・両生類, p. 81. 富山県生活環境文化部施前保護課. 富山.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎, 2002. 決定版日本の両生爬虫類, p. 256. 平凡社. 東京.
- 山本栄一, 1984. 愛媛県小田町におけるタカチホヘビ *Achalinus spinalis* PETERS について II. Snake, 16 (1): 49-55.

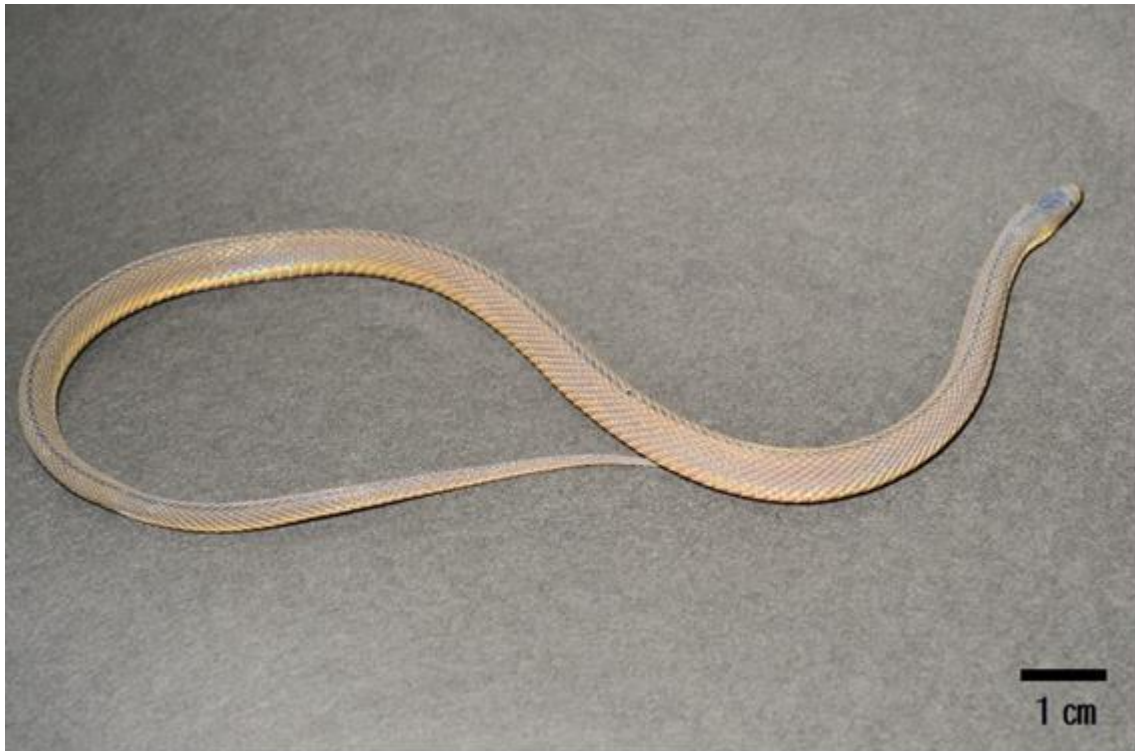


写真1 個体① (2021年8月8日)



写真2 個体② (2022年8月3日)

魚津水族博物館年報 第 32 号

ANNUAL REPORT OF UOZU AQUARIUM No.32

2023 年 3 月 編集

編集／魚津水族博物館

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

HP <http://uozu-aquarium.jp>

E-mail suizoku@city.uozu.toyama.jp